

2016.1

編集発行人・吉田隆司

毎月1回、1日発行

定価1部100円/1年1000円(送共)

郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3

TEL. 03-3814-3591

FAX. 03-3814-3590

Website: <http://www.rizhong.org/>

E-mail: info@rizhong.org



A先生の新語コーナー



Shuāng'ào zhī chéng “双奥之城”

両方の五輪の(開催)都市。国際オリンピック委員会(IOC)は昨年7月31日の総会で、2022年冬季五輪を北京で開くことを決めた。北京は2008年に夏季五輪を開いており、史上初めて夏・冬両方の五輪を開催する都市となる。また、冬季五輪の中国での開催も初めて。河北省張家口市との共同開催の形を取り、北京は主にスケートなどの上氷競技を、張家口市ではスキーなど雪上競技を行う。開催期間は22年2月4日~22日の予定。

(A)

明けましておめでとございます!



年頭に当たり皆様のご多幸ご健康をお祈り申し上げます。

2015年も様々な活動に取り組みました。一昨年は倉石先生没後40年を記念しての連続講演会を実施しましたが、日中学院倉石賞再開の前触れでした。10月に選考会議が開かれ、(公財)国際文化フォーラムに授賞することが決まりました。副賞の金額が以前よりも少なくなったことが気がかりだったのですが、授賞決定のお知らせをした際、「受賞できたことがとても名誉です」と対応され、ほっとしました。2月に授賞式を予定しています。みなさまのご出席をお待ちしています。

11月には、日本ペンクラブが招聘した6名の中国作家代表団をお迎えし、日本ペンクラブとの共催で「食と文学」をテーマにシンポジウムを開くことができました。日本ペンクラブの浅田次郎会長のユーモアたっぷりのお話し、作家代表団の各人の個性的な価値観を会場につめかけた皆さんと楽しみました。当日のシンポジウムのほとんどを通訳されたのがサミュエル周さん、その見事な通訳ぶりは、心地良ささえ感じさせるものでした。改めて通訳という仕事の大切さをかみしめました。

過ぎてみれば、日中関係の好転と中国語学習者の増加を願って動き回った1年間でした。

本科生募集活動では担当者が、150校の高校を直接訪問し、本科の魅力をアピールしてきました。日本語科はこれまでの募集活動に加え、中国国内の日本語学校や留学エージェントとの連携を始めました。そんな中で、初めての試みとし、中国から6名の学生をむかえ2週間の夏季短期研修を実施しました。別科も大きな講座の改編を行いました。夜間講座の柱を担ってきた基礎週3回1年半課程を廃止、2016年4月より半年修了の集中講座にします。また、夜間基礎週2講座の開始時間を、これまでの18時45分始まりから、19時開始

に繰り下げます。特別公開講座では、日中友好会館の武田勝年理事長や夏瑛留学生事業部部長にも登場いただきました。11月の「中国結び」のワークショップにも多くの方に参加いただきました。好評だったことを受け、今後は定期的な講座にできないかと思案をしているところです。12月に「ノーモア南京」の願いをこめドイツ・フランス・中国の合作による映画『拉貝日記』を上映しました。

年末に「50名を中国に招待」の話が飛び込んできました。突然のお話に、大いに戸惑ったのですが、せっかくなお申し出に全力で対応することにしました。結果は、後日ご報告いたします。

2016年日中学院は、倉石中国語講習会から数え65年目を迎えます。記念活動として、先ずは『中国へかける橋VI』の編集発行に取り組むことを決定しました。

日中学院は、この65年の間、日中関係の影響を受けながら多くの方々への援助のもとで続けることができます。この数年間大きな赤字決算となっている中、借金をすることなく運営できたのは、危機に備え、40年余にわたりしっかりと貯蓄を重ねてきたからです。決算状況改善のためには受講生を増やすことが必要です。そのために様々な努力をしていますが、よい結果に結びついていないのが現実です。2016年度は、教職員に減給をお願いし、今後3年間で収支均衡を目標とした予算計画の第1年目となります。学院にとって厳しい出発となります、引き続きご支援をお願いいたします。

2016年1月1日

日中学院長 吉田隆司
教職員運営会議



2016年の年頭にあたり

日中学院校友会会長 名和巖郎

2016年を迎え、日中学院教職員、学生、校友のみなさまが健康で活躍されますよう心からお祈り申し上げます。

最近、授業で課文「三十年河東，三十年河西」を学んだ。作者の季羨林は国際的に著名な東方学の大家で言語学者。世界の文化は東西に大別され、それぞれ生成・発展・没落の過程があり、一方が衰退すると他方が興隆すると説く。

百度で検索したところ、季羨林はトカラ語〔吐火羅語〕の研究者としても有名と知る。トカラ語は嘗て中国タリム盆地（現在の新疆ウイグル自治区）の北端に位置する亀茲（クチャ）やトルファンで使われていた言語で、玄奘法師の『大唐西域記』にもトカラ（都貨羅・吐火羅）国の記載がある。10世紀末には滅亡したが、19世紀末に英、独、日本の大谷探検隊などにより文書が発見され、現在も日本人を含む研究者による解説が行われている。

実は日本書紀（現代語訳）を読みながら、数か所トカラ（都貨羅・吐火羅）人の記述があることを最近知った。日本書紀にいうトカラ国の解釈は諸説あるとのことだが、他方で玄奘法師の頃に日本にもかの地のトカラ人が渡来したとする見方に出会い、これは「一带一路」なんだと何とはなしに納得してしまった。

閑話休題、ISへの空爆でテロが全滅でき、また難民問題は解消されるのか。暗澹たる気持ちにならざるを得ない昨今です。

2015年の校友会活動について簡単に報告します。

第19回中国旅行：4月10～16日に校友会旅行委員の猪飼さんの引率により名瀑壺口瀑布、中国の死海解池、道教の聖地西岳華山、函谷関など『黄河中流域の自然を訪ねる旅』（5泊6日16名参加）を行ないました。

第20回校友会旅行は2016年3月に『早春に浙江省の水辺と美食を訪ねる旅』を企画しました。

文化祭：『ピースリーディング』（『わたしのやめて!』中国語・日本語による朗読）は、教職員、本科・別科学生、校友18名が参加。1階ロビーで例年どおり模擬店『おにぎり屋さん』を出店。写真展は1階ロビー『校友会黄河中流域の自然を訪ねる旅』『1982年のオールド上海』『わたしの一枚』『幽冥鐘って何?』『北京藍日』『川劇』201教室 校友会『遵義会議会址』『早春の江南』『西安の清真寺』に分け展示。なお、201教室では壺口瀑布の動画や『遵義会議会址』（パワーポイント）など大型テレビで放映しました。

日本語科留学生とのバス旅行：9月19日（土）に『バスハイクin筑波』を企画しましたが、今年は参加希望者が少なく、残念ながら中止しました。

講演会：2016年春に講演会を予定しております。

日中学院校友会は1986年に誕生しました。校友会は、会員相互の親睦交流を深めるとともに、日中学院を賛助し、日中友好の架け橋として、中国語及び中国文化等の研究・普及活動の発展に寄与することを目的とするもので、この会に加入した現・旧教職員及び学生により組織運営されています。学院生は本科別科を問わず、誰でも加入できます。多くの校友のみなさんの参加を歓迎いたします。

2012年9月校友会のホームページを立ち上げました。日中学院校友会をクリックすると、旅行報告をはじめ

校友会の最新の情報をご覧ください。日中学院HPからもご覧になれます。

2016年元旦



日中学院の先生方が、どのように日本語や中国語を勉強されたのか。

皆さんは、聞いてみたいはありますか？

先生方の勉強方法を知ること、ご自分の学習にもきっと役に立つはずです。今後多くの先生にお話を伺う予定です。第一回は張泰雲先生にお伺いしました。

張泰雲 Zhāng Tàiyún
出身地：中国江蘇省蘇州市
好きな日本の食べ物：ラーメン
素敵だなと思う言葉：わび、さび
趣味：読書、音楽、旅行、写真



日本語の勉強を始めたきっかけ

私の父は、戦前留学生として来日、京都帝国大学（現京都大学）を卒業しました。そのため小さい頃家にはたくさんの日本語の書籍がありました。日本語の本には漢字がたくさんあるので、習ってみたいと子供のごろから思っていました。しかし父は日本へ留学したことで、文化大革命やその前の政治運動で、かなり大変な思いをしていたので、父から日本語を教えてもらうことはありませんでした。

日本との国交回復して数年後に、中国で日本語のラジオ放送が始まりました。日本のテレビ等でも活躍した陳真先生がラジオ講座の先生をしていました。私は陳真先生の綺麗な日本語の発音に引かれました。高校卒業後、一年間農村に行かされました。その時ラジオ講座を聴きながら、面白半分には日本語の勉強を始めました。

文化大革命で中断していた大学の試験制度が回復したのが1977年の夏でした。私もさっそく受験しました。しかし日本語科ではなく、理系を受験しました。両親は、文系は政治に繋がりがあるのでなるべく文系ではなく、理系に行くように勧めていましたからね。しかし、農村に行っている間にあまり勉強をしていなかったもので、合格しませんでした。二回目は日本語科を受験しました。その時日本語は多少できるようになっていたし、当時日本語ができる受験生は少なく、日本語で受験すると合格する確率が高いこともありました。

日本語科の試験問題は難しいものではなかったと思います。ただ口答試験もありました。事前に準備していたこともあり、口答試験ではかなり評価されたようです。

そして、南京大学へ入学し、日本語を勉強することになりました。

必死に勉強した大学時代

中国の大学は、寮も大学の敷地内にありますから、外国語学部の学生はみんな朝起きてからキャンパスに行き、本文を朗読する習慣があります。私もほぼ毎日、朝日本語の朗読をしたり、自習をしたりしました。その後教室に行き、午前中はずっと授業です。午後は、授業がある時もありましたが、無い時は図書館に行って本を読んだり、宿題をしたり。また録音室に行き、当時まだ少ない日本語の音声教材を聴いたりもしていました。種類は多くはありませんでしたが、日本の昔話などを、繰り返して聞いていました。夜には教室に行き勉強していました。寄宿舎は消灯時間がありましたが、教室は消灯時間が無いので、夜中まで勉強している学生がたくさんいました。当時は、本当に一日中勉強ばかりしていました。地方から来た学生はほとんどが学内の寮に住んでいました。私が住んでいた女子寮は、八人部屋で、日本語科四人、スペイン語科二人、英語科二人がいました。夜ベッドに入った後も、日本語科は日本語で、スペイン語科はスペイン語で話しをしていました。同じ寮の部屋で三か国語が飛び交っていました。片言の日本語でも、覚えたらとにかく日本語を使って会話をしました。当時は多分間違いだらけの日本語を使っていたと思います。でも、通じていたのです。通じればそれでいいのですから。

二年生から日本人の先生に、日本文学や作文を習いました。日本人の先生は、全く中国語ができなかったので、無理やり先生とは日本語で会話をしていました。

当時私の日本語の勉強法を紹介させていただきます。

1、新出単語を勉強する時、動詞と形容詞はなるべくフレーズごと、またはセンテンスごとに覚

える。

- 2、辞書を頻繁に引く。辞書に出た例文をなるべくたくさん覚える。
- 3、慣用句や文型をたくさん覚える。
- 4、一日に一定量の単語を覚える目標を設定する。
- 5、教科書の本文を大きな声で朗読する。基本的に暗唱する。
- 6、ネイティブの音声をたくさん聞く。音声教材が少なかった時代だったので、短波が聴けるラジオでNHKの放送をよく聞いた。
- 7、録音を聴く時はなるべくシャドウイングをする。
- 8、中国語から日本語に、日本語から中国語に変換する練習を常に脳内でやる。
- 9、日本語で日記を書く。
- 10、普段クラスメートと日本語で会話する。
- 11、作文で先生に直された箇所はどうしてこのように直されたのか、じっくり考えて覚える。
- 12、日本語の小説などを大量に読む。
- 13、日本語の歌をたくさん聞いて覚える。

当時の中国では、外国語科の大学を卒業するとすぐに現場の通訳として仕事をしなくてはいけませんでした。大学を卒業してからいきなりです。ですから、大学の三年、四年になると、日本からの代表団などの現場通訳として仕事をさせられました。自分が担当する代表団の専門用語も勉強しました。卒業後すぐに仕事をする必要がありましたので、大学時代は必死に勉強しました。

大学卒業後の生活、そして日本へ

大学卒業後は、統一分配制度（高等教育機関の卒業生を国主導で就業先を決定する制度）により国の建築材料部に所属する硝子繊維研究設計院の情報室に配属され、資料の翻訳などを行うことになりました。私が働いていた情報室には、日本語課、ドイツ語課、フランス語課、英語課がありました。私は日本の論文などの資料を一日中翻訳していました。さらに日本から代表団が来る時は通訳の仕事もしました。機械輸入の仕事で、通訳として日本に一ヶ月滞在したこともあります。そこで五年間翻訳通訳の仕事をしました。情報室での仕事は、条件も環境もよく、とてもいい経験になりましたが。しかし毎日硝子繊維や光ファイバーの資料の翻訳は退屈を感じるようになっていました。そんなある日、南京芸術学院の日本語教師に応募し、採用され、日本語講師として働くことになりました。そこで三年間、日本語講師をしまし

た。

1990年に愛知県立大学で日本の近代文学を勉強する研究生として来日しました。92年大阪に移り、中国語を教え始めました。それ以来ずっと中国語を教える仕事に携わっています。東京に来たのは、日中学院で教えるようになった1999年のことです。

日本での日本語の勉強について

日本に来る前にもたくさん勉強をしていましたが、日本でももちろん勉強をしました。中国で学習した日本語は、書面語が多かったように思います。正確に話すことはできても、やはり日本人の普段の話し方とは異なります。テレビドラマもよく見ましたね。また大学時代から日本語で文章を書くことは続けていました。本もたくさん読みました。今は日本語の環境にいるからでしょうか、最近あまり勉強をしなくなりました（笑）。

語学を勉強する場合、自分でできるだけ機会を見つけて使うこと。学習した言葉は、使いながら勉強することが本当に大切です。日本に来てからも見た熟語などは、ノートに書いて覚えたりもしていました。

しかしいまだに日本語は難しいと感じることがあります。特に語尾のニュアンスがつかめません。未だに正確に理解できていないと思います。同じ言葉を話していても、語尾に着く言葉により若干ニュアンスが異なります。怒っていたり、単に呼びかけているだけだとか、その他にもたくさんあります。その違いは外国人にはなかなか理解できないところです。そのため日本人が聞くと偉そうな感じに聞こえたり、失礼に感じることもあるかと思っています。さらに、男性と女性ではまた異なります。外来語もどんどん増えていきますし、和製語もどんどん増えています。それが本当に難しく感じます。日本語はどんどん進化しています。英語だけではなく、イタリア語やフランス語から外来語を入れています。中国語も最近同様です。インターネットが普及してから、新しい言葉がどんどん増えています。

中国語を勉強する同学へのアドバイス

中国語の発音を勉強する段階を長く退屈だと感じられる方が多いようです。そのため、早く喋りたいと焦る方もいらっしゃいます。しかし、中国語は発音が命です。正しい発音であれば、中国語を上手だと感じられ、とてもいい第一印象を与えることが出来ます。発音段階を軽視し、癖になってからではなかなか治りません。正確な発音を身

につけることは、リスニングの力にも影響が出てきます。自分の発音が良くなければ、正しい発音が聞き取れませんから。

日本語のボキャブラリーが少ない頃には、私も良く間違えました。間違いを直されたことは、忘れません。ですから間違いを恐れてはいけません。

ここで、私が経験した恥ずかしいことをいくつかこっそり教えます。

日本語を勉強してまもない頃、日本の大学の代表団が来たときに、あまり日本語が話せなかったので筆談をしながら交流をしていました。その時に「おいくつですか?」と聞かれて、「はつか」と答えたら、「はたちですね」と言われました。それ以来間違えることはなくなりました。

またある時は、友人が買った香水を褒める時のことでした。「この香水の香りがとてもいいね」と言うつもりでしたが、「香水」を「こうずい」と発音して笑われました。恥ずかしい思いをしたこともあります。

さらに授業中に、中国語の数詞の読み方を練習する時のことでした。学生たちに「一から十まで

の奇数を言いなさい」と言うつもりでしたが、「奇数」のアクセントが正確ではなかったので、「キス」に聞こえました。学生さんに直されたおかげで、この単語を発音する時にもう恥をかかずに済むことができました。

話すときに、うまく話さなければ、間違えてはいけないとよく思うのですが、間違えることも大切な勉強です。積極的に中国人と話すことも本当に大切です。

学習の時間があまり取れない方は、どのように学習を続けていけば良いのか、皆さん迷います。私はお仕事をされている方には、通勤時間を利用した学習方法をお勧めしています。電車の中で、中国語の音声を聞いたり、自分でシャドウイングをすることをお勧めしています。電車のなかには雑音もあるので、周りに気付かれることはありません。また本を読むことも良いですね。それぞれ自分にあった学習方法を見つけることも大切です。とにかく「多聴、多説、多読、多写」です!頑張り勉強していきましょう。



俳句は世界で最も短い詩と言われる。中国にも「漢俳」を楽しむ人たちがいる。ただ中国語を五七五のリズムで並べるだけでも、「中国語五七五」を作ることができる。こうした形で習った単語や表現をどんどん自分の言葉として生かしていくのは、大変良い学習方法だと思うし、1日3行だけの「3行日記」をつけることで、学習の足跡を残し、「非日常的日常」を楽しむことができる。

そのような非日常体験を日常的に行えば、外国語が上達するばかりでなく、普段の生活に潤いを与え、新しい感動を味わい、進化・成長していく自分を発見することもできる。自己発見・自己実現のツールの一つとしても、多くの方に「汉语五七五」を楽しんでいただけたらと願っている。 胡興智

三行日記五七五

「色」

天空蔚蓝色	空气新鲜又清爽	此时正金秋	真木让
绿色粉红色	四季山色多变幻	秋叶更斑斓	细野薰
白色表演服	化纤不变绢变黄	发挥各特长	三竹玲子
去过九寨沟	好像到了极乐园	千彩万风景	星胜则
熟悉的风景	全部隐没在雪下	像一笔勾销	秋山京子
天空的色彩	越来越蓝气更爽	秋叶竞红黄	山口智绘
最爱小提琴	音色令人多陶醉	浪漫又热烈	吉田真理
尘世莫忧思	赤橙黄绿青蓝紫	彼岸也如此	古月清舟



凹凸聚乐部上午周二应用班

1月の日中学院

日	一	二	三	四	五	六
					1	2
3	4	5	6 ●仕事はじめ・開門	7	8 ●別科公開講座 (18:45～) 入門・基礎	9 ●別科公開講座 (13:00～) 入門・基礎
10	11 ●祝日	12 ●本科・日本語科 授業再開 ●別科260期 授業開始	13	14	15 ●中国語検定受付 開始(～2/15)	16
17	18	19	20 ●日本語科2年 国会見学 ●本科追試(～26)	21 ●本科 選択授業 聴講①	22	23
24/31	25	26	27	28	29	30 ●本科生のための 公開講座

- 2月の日中学院
- ・2日…合同弁論大会
- ・4日…本科 選択授業聴講②
- ・5日…日本語科 春節パーティ
- ・8日…春節

- ・11日…本科・別科・日本語科 平常授業
- ・12日…本科2次入試受付締切
- ・14日…別科 1日集中講座/本科2次入試
- ・16日…本科2次入試合格発表
- ・17日…本科3次入試募集開始

- ・20日…本科定期試験(～26日)
- ・20日…倉石賞授賞式
- ・22日…日本語科定期試験(～26日)
- ・26日…藤堂先生命日
- ・29日…ボウリング大会(本科・日本語科)

【耳目】

別科講座情報

○3カ月で学ぶベーシック中国語講座

週3回・3ヶ月・30回(全60時間)

中国語を初めて学習する方を対象にした、速習講座です。

基礎的な発音から簡単な挨拶や自己紹介、買い物の表現などを学びながら、コミュニケーションを楽しみましょう。

開講日：2016年1月13日(水)～

曜日：月・水・金 10:00～12:00

受講料：72,600円 ※テキスト代別

○土曜コミュニケーション中国語Ⅰ(1月班)

初心者を対象に、発音を基礎から学び、場面別に構成された簡単な会話からコミュニケーション能力を養成します。1月開講、1年間のカリキュラムの講座です。

開講日：2016年1月16日(土)

時間：16:00～18:00

入学金：10,000円

受講料：37,100円(1期・3ヶ月・10回分) ※テキスト代別

その他多数の講座が開講します!

○おめでとうございます!

日本全国の若者を対象に、隣人「中国」とわたしをテーマにした「Panda杯全日本青年作文コンクール」で本科2年の山崎顕吾同学が入選されました。おめでとうございます。

○ワークショップ報告

11月28日(土)にみなみりょうご先生をお招きし、「中国結び」から知る「結ぶ」文化と題して、「中国結び」のワークショップが、日中学院・国際文化フォーラムの共催で、日中学院で行われました。

当日は、33名が参加されました。ワークショップでは、中国結びの歴史の勉強もあり、さらには実際に中国結びに挑戦などもしました。

